

穂積八束 ほづか 憲法學者、法學博士。安政七年（一月）二十八日伊豫國宇
 和島生れ、大正元年十月五日歿（八六〇—九二二）。法學者穂積陳重ちんじゆうの弟。
 明治六年上京、共に學校、外國語學校がくに學び、大學豫備門よびもんを経、十
 八年東京大學文學部政治學科卒。翌年ドイツ留學、二十一年歸朝して
 帝國大學法科大學教授（二十五年法科大學長）となり憲法を擔當し日本
 邦憲法學の創始者。二十四年『法學新報』第五號に「民法出テ、忠孝
 亡フ」を發表、民法典論争を惹起した。のち貴族院議員、宮中顧問官
 等歷任。帝國學士院會員。辯護士穂積重胤しげふゆはその長男。

著書 『國民教育愛國心』（明治二十年六月七日八尾新助刊）、『穂積八束
 博士論文集』（大正二年十一月—十五年上杉積吉編刊）等。

